

株主の皆様へ

第78期 中間報告書

〈2025年1月1日～2025年6月30日〉



山崎製パン株式会社

株主の皆様へ



目次

株主の皆様へ	1
経営基本方針、 21世紀のヤマザキの経営方針	2
事業の概要	3
セグメント別の状況	5
製品情報	9
社会貢献への取組み	11
財務諸表（連結）	13
財務諸表（単体）	15
YAMAZAKIインフォメーション	16
株式の状況、役員・従業員	17
グループ概要	18
株主メモ	裏表紙

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループ第78期事業年度の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当中間期（2025年1月1日から2025年6月30日まで）におきましては、物価上昇によりお客様の節約志向や低価格志向が強まる中で、卵価格の急騰などによる原材料費の上昇に加え、人件費が上昇するなど厳しい経営環境となりましたが、当社は「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新しい価値と新しい需要の創造に取り組んでまいりました。

当中間期は、昨年、新規技術を導入して大幅な品質向上を実現した「ダブルソフト」の技術を最大限活用し、主力の「ロイヤルブレッド」をはじめ、低価格食パンや菓子パン、和菓子、洋菓子等に導入して、品質向上による取扱拡大をはかりました。また、2極化・3極化戦略により、低価格製品の充実や、女性製品開発担当者の感性を活かした高付加価値製品の開発をはかるなど、変化するお客様のニーズに対応し、本年1月1日出荷分から実施させていただいた一部の食パン、菓子パン、和洋菓子製品の価格改定に際しましても、規格の充実や下支え製品の強化など丁寧に対応したこともあり、業績は好調に推移しました。

また、引き続き、労働安全衛生管理体制の整備・充実強化を推進し、従業員による安全日誌を活用したチョコ停・トラブル、ヒヤリハットの日次・週次・月次管理に加え、機械設備のリスクアセスメントによるリスクの排除と低減、また管理・監督職による日々の安全パトロールや安全教育を実施し、2本立ての労働安全衛生管理体制により、働く職場の安全安心の実現に取り組みました。

当中間期の業績につきましては、新規技術を活用した品質向上が奏功したことに加え、価格改定の寄与もあり、山崎製パン(株)単体の業績が好調に推移しました。また、(株)サンデリカや(株)YKベーキングカンパニーなど連結子会社の業績も好調に推移し、お陰様をもちまして、増収増益を達成することができました。

当社グループは引き続き、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新規技術を活用した品質向上をはかり、2極化・3極化戦略によって、変化するお客様のニーズに対応した製品開発を推進して新しい価値と新しい需要の創造に取り組んでまいります。また、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をして働く職場の安全安心の実現にも取り組み、21世紀のヤマザキの前進に向け、グループ一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年9月

代表取締役社長

飯島延浩

経営基本方針

綱領

(1) わが社は、企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、個人の尊厳と自由平等の原理に基づき、いのちの道の教えの言葉に従い、困難に屈することのない勇氣と忍耐とによって、神のみこころにかなう永続する事業の実現を期すこと。

(2) われわれは、常に良きものへ向って絶えず進歩しつづけるため、各人が自由な決心に基づき、正しき道につき、断固として実行し、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進すること。

具体方針

21世紀のヤマザキは、新しいヤマザキの精神と新しいヤマザキの使命に導かれて、いのちの道の教えの言葉に従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する「部門別製品施策・営業戦略」、「小委員会によるなぜなぜ改善」を行ない、次の六つの具体方針の実践、実行、実証に邁進する。

- ① 最高の品質と最善のサービス(今日到達しうるベストオリティー・ベストサービスの実践、実行、実証)を目標とし、品質は今到達しうる最高のものであり、新鮮であること。それは製品、組織、仕事、工場、財産並びに設備のなかに表わさるべきこと。
- ② 充実した効率のよい積極的な組織体を作りあげ、そして維持拡充していくため、あらゆる可能の努力を注ぐこと。その組織体の人々は、会社を信頼し、仕事が喜びであり、普通ではできない仕事を完遂することが個人的な願望にまでなっていること。

③ 入手できる限りの、事業に独特な要求に適合した最善の設備と施設を備えること。

この設備や施設の調達は、維持運営が経済的であることと会社の組織に最も仕事をしやすい道具を与えるという二つの観点から考えられること。

④ 産業界と一般社会との間に協力関係を創り出し、維持していくため、実行可能な一切のことを行なっていくこと。

⑤ 業務の遂行に関するすべての決定を行なうにあたって、常にその一件を処理する上での便宜よりも、事業全体にとって何が正しいか、何が最善であるかを中心に考えること。

⑥ 顧客に接するときは、常に公明正大で、かつ相手が何を欲しているかを十分に考慮すること。配達や品質やサービスについては、その成果が最優秀なものになるように努力すること。

21世紀のヤマザキの経営方針

当社は、21世紀の事業環境と社会の変化に対応するため、「企業経営を通じて社会の進展と文化の向上に寄与することを使命とし、自主独立の協力体制を作り、もって使命達成に邁進する」という顧客本位の精神で、潜在需要に着目しイノベーション(技術革新)によって需要を創造するという、前向き積極的なピーター・ドラッカー博士の経営理論に導かれる山崎製パン株式会社の「経営基本方針(綱領および具体方針)」を改めて高く掲げると同時に、これを補完するものとして、「日々、お取引先からご注文いただいた品は、どんな試練や困難に出会うことがあっても、良品廉価・顧客本位の精神でその品を製造し、お取引先を通してお客様に提供する」という、新しいヤマザキの精神に導かれ、科学的根拠の上立った食品安全衛生管理体制の上に築き上げる科学的・合理的・効率的な事業経営手法として、いのちの道の教えに従ったすべての仕事を種蒔きの仕事から開始する部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を実践、実行、実証することで、新しい価値と新しい需

要を創造し、社会の負託に応え社業を前進させることを21世紀のヤマザキの経営方針といたします。

事業経営の具体的遂行に当たっては、経営陣、管理職は、本物の5S・全員参加の5Sとピーター・ドラッカー博士の5つの質問を連動させる「2本立ての5S」を行うとともに、いのちの道の教えに従った部門別製品施策・営業戦略をピーター・ドラッカー博士の5つの質問と連動させ、「私たちの使命は何ですか」(What is our mission?)と問うだけでなく「私の使命は何ですか」(What is my mission?)と問い、生産部門・営業部門一体となった業務を推進するとともに、内部管理体制を充実・強化して、各部門毎の自主独立の協力体制を構築いたします。また、「良品廉価・顧客本位の精神で品質と製品、サービスをもって世に問う」というヤマザキの精神と「知恵と知識によって変化に挑戦し、新しい価値と新しい需要を創造する」といういのちの道を導く言葉によって日々の仕事の実践、実行、実証に励み、業績の着実な向上を期してまいります。

当中間期における連結業績の概況

売上高 **6,506億 33百万円** (対前年同期比 105.3%)

営業利益 **346億 90百万円** (対前年同期比 111.8%)

経常利益 **354億 48百万円** (対前年同期比 104.2%)

親会社株主に帰属する
中間純利益 **229億 83百万円** (対前年同期比 106.6%)

当中間期の事業の概況

当中間期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続き、インバウンド需要が増加するなど景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、米国の関税政策による不透明感がみられました。

当業界におきましては、物価上昇が続きお客様の節約志向や低価格志向が強まる中で販売競争が一段と激化するとともに、鳥インフルエンザの影響により液卵が高騰したことに加え、油脂、包材など原材料価格や人件費、物流費等の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストアやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、人流の増加やインバウンドの増加により売上回復が続きましたものの、人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、「い

のちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新しい価値の創造に取り組んでまいりました。昨年、新規技術を導入し大幅な品質改善を実現した「ダブルソフト」の技術を最大限活用し、本年1月から主力食パンの「ロイヤルブレッド」に導入して業績向上への推進力とするとともに、この技術を菓子パンや和菓子、洋菓子にも活用し、品質訴求による取扱拡大をはかりました。また、2極化・3極化戦略によって低価格製品を充実する一方で、女性製品開発担当者の感性を活かした高付加価値製品の開発に取り組むなど、変化するお客様のニーズに対応した隙のない製品開発を推進して業績向上をはかり、本年1月1日出荷分から実施した、一部の食パン、菓子パン、和洋菓子製品の価格改定に際しましても、規格の充実や下支え製品の強化など丁寧に対応したこともあり、業績は好調に推移しました。

また、当社は引き続き、労働安全衛生管理体制の整備・充実強化を推進し、労働安全衛生推進基本会議を毎月開催して経営陣、本社各部・各工場が一体となって労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組みました。また、安全日誌を活用して従業員によるチョコ停・トラブル、ヒヤリハットの情報を日次・週次・月次で管理し改善を進めるボトムアップによる労働安全衛生管理とともに、本社各部および各工場における機械設備のリスクアセスメントによるリスクの排除と低減、ならびに管理・監督職による日々の安全パトロールや安全教育を実施す

売上高



営業利益



るトップダウンによる労働安全衛生管理を2本立てで行う、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をはかり、働く職場の安全安心の実現に取り組みました。

デイリーヤマザキやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトを通じて日次管理・週次管理・時間管理の経営手法により日々の仕事の精度向上につとめるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し女性製品開発担当者の感性とヤマザキの技術を最大限活用した競争力のある商品開発を推進し、お客様に喜ばれる商品づくりに取り組みました。

当中間期の業績につきましては、パン類を中心に新規技術を積極的に活用し品質向上をはかったことに加え、価格改定の寄与もあり、山崎製パン(株)単体の業績が好調に推移するとともに、連結子会社の業績も好調に推移し、増収増益となりました。

[セグメント別の状況は5頁から8頁のとおりです。]

通期の見通し

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、米国の関税政策による企業収益への影響が懸念され、景気の先行きは予断を許しません。当業界におきましては、物価上昇によりお客様の節約志向や低価格志向が根強く、また猛暑が続く中で、液卵や油脂、包材の高止まりなど原材料価格の上昇に加え、人件費や物流費などの上昇が予測され、厳しい経営環境になるものと思われま

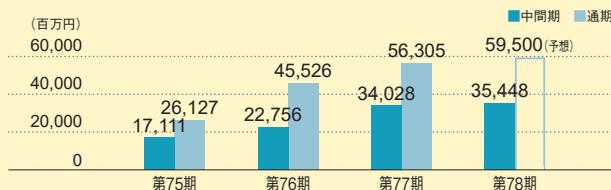
このような状況下でありまして、当社グループは、引き続き「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新規技術を活用した品質向上をはかり、2極化・3極化戦略によって、変化するお客様のニーズに対応した製品開発を推進し、新しい価値の創造に取り組むとともに、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をして働く職場の安全安心の実現にも取り組み、着実な業績向上をはかってまいります。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始し、運営・商品が一体となってオリジナル商品の充実強化を始めとした新しい価値の創造に取り組み、業績回復をめざしてまいります。

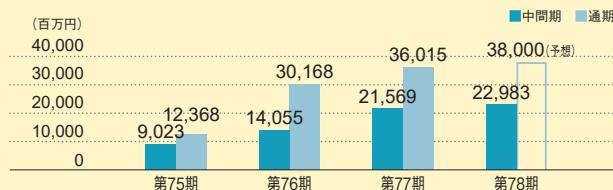
通期の連結業績見通し

売上高	1兆2,930億円 (対前期比103.9%)
営業利益	575億円 (対前期比110.8%)
経常利益	595億円 (対前期比105.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	380億円 (対前期比105.5%)
	[2025年8月1日 業績予想を上方修正]

経常利益



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



セグメント別の状況

食品事業

売上高 **6,045億20百万円** (対前年同期比 105.2%)

92.9%
売上高構成比

食パン部門 売上高**623億45百万円** (対前年同期比 104.2%)

9.6%

食パンは、前期に続き主力食パンに加え低価格食パン等にも新規技術を順次導入して品質を向上させたこともあり、主力の「ロイヤルブレッド」が伸長するとともに、オリジナル対応を含む低価格食パンやサンドイッチ用食パンが伸長し、前年同期の売上を上回りました。



ロイヤルブレッド



ダブルソフト



超芳醇



スイートブレッド

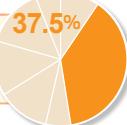


ダブルソフト
全粒粉入り



減塩食パン
超芳醇
(塩分50%カット)

菓子パン部門 売上高2,436億6百万円 (対前年同期比 103.9%)



菓子パンは、「まるごとソーセージ」や「アップルパイ」などの主力菓子パンが伸長するとともに、ヤマザキ菓子パンや「ずっしり」シリーズ、「ドーナツステーション」などの低価格製品が伸長しました。さらに、(株)YKベーキングカンパニーグループの売上が好調に推移したこともあり、前年同期の売上を上回りました。



ロイヤルバターロール



まるごとソーセージ



アップルパイ



あんぱん
(ヤマザキ菓子パン)



ずっしりデニッシュ



オールドファッションドーナツ
(ドーナツステーション)



サンミー
(株)YKベーキングカンパニー

和菓子部門 売上高392億17百万円 (対前年同期比 106.3%)



和菓子は、主力の串団子が好調に推移するとともに、新規技術を活用し品質を向上させた饅頭、中華まん、ホットケーキ、「やまざき蒸しパン」シリーズなどが伸長し、前年同期の売上を上回りました。



串だんご



黒糖まんじゅう



豆大福



具たっぴり肉まん



熟成マラーカオ
(やまざき蒸しパン)

セグメント別の状況

洋菓子部門 売上高**816億39百万円** (対前年同期比 104.8%)

12.5%

洋菓子は、新規技術を活用し品質を向上させた「イチゴスペシャル」などのスナックケーキや「5つに切ったロールケーキ」、「ダブルロール」などのスイスロールが伸長するとともに、コンビニエンスストア向け製品が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。



莓のショートケーキ



イチゴスペシャル



ダブルロール



大きなツインシュー

調理パン・米飯類部門 売上高**844億68百万円** (対前年同期比 109.8%)

13.0%

調理パン・米飯類は、おにぎりが好調に推移するとともに、(株)サンデリカにおいて主要取引先であるコンビニエンスストアチェーンとの取引が増加したことに加え、量販店との取引拡大もあり、前年同期の売上を上回りました。



手巻おにぎり
シーチキンマヨネーズ



鶏五目おにぎり

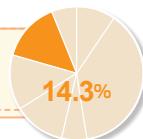


ひとくちサンド



肉たっぷり牛丼

製菓・米菓・その他商品類部門 売上高**932億43**百万円 (対前年同期比 105.3%)



製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「カントリーマアム」やヤマザキビスケット(株)の「チップスター」、(株)東ハトの「ハーベスト」等、各社の主力品が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。



カントリーマアム



ホームパイ



チップスター



ハーベスト

流通事業

売上高 **389億51**百万円 (対前年同期比 107.9%)



デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始し、運営・商品が一体となって、お客様のニーズに対応したオリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携した競争力のある商品開発や新規技術による冷凍生地を活用したデイリーホットの品質向上をはかりました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトにおける成功事例を活用し、デイリーホットを中心に収益の改善をはかるとともに、各工場と連携し売り場づくりや店舗改装によるヤマザキらしい店づくりに取り組むなど、デイリーヤマザキ1店1店の店舗収益の改善をはかりました。この結果、チェーン全店売上高が前年同期を上回るとともに、営業総収入は直営店舗数の増加もあり増収となりました。

デイリーヤマザキ 当中間期末の店舗数

1,264店

(前年同期末差 38店減)

●デイリーヤマザキ

1,004店

(前年同期末差 3店減)

●ニューヤマザキデリーストア

251店

(前年同期末差 34店減)

●ヤマザキデリーストア

9店

(前年同期末差 1店減)



デイリーヤマザキ松戸六実店 (千葉県松戸市)



味わい タマゴサンド こだわりの メロンパン 塩バターパン (デイリーホット)



卵を贅沢に使った プリン

新規技術を活用した製品のご紹介

当社は、昨年『ダブルソフト』に新規技術を導入して大幅な品質向上を実現いたしました。その技術を活用し、食パンをはじめ、菓子パンや和菓子、洋菓子等の品質向上に取り組んでおります。その中から、特にお客様にご好評をいただいている製品をご紹介します。

ロイヤルブレッド

小麦本来の味と香りをいかして焼きあげた、バター風味とココのあるしっとりした食感の食パンです。

新規技術により、“生”で食べた時のしっとり感と口どけの良さが向上するとともに、トーストした時のサクリ感がさらに高まりました。



シュガーロール

サクッと軽い食感のクロワッサンに、ストライプ状にシュガーをトッピングした菓子パンです。

新規技術により、生地のしっとり感と口どけ・歯切れの良さが向上しました。



ふわもち食感のパンケーキ

ふわふわ食感のパンケーキに、すっきりとした甘さのメープルフィリングとマーガリンをサンドしたパンケーキです。

新規技術により、さらにふわふわと口どけ良く、もちもちとした食感の生地になりました。



5つに切ったロールケーキ

しっとりふわふわの生地で、口どけの良いクリームを巻き込んだロールケーキです。

新規技術により、生地の口どけ・歯切れの良さが向上しました。



ヤマザキの惣菜パンのご紹介

惣菜パンは、調理せずに、手軽に食事として楽しめることもあり、ニーズが高まっております。さまざまなラインアップの中から、特にお客様にご好評をいただいている製品をご紹介します。

パングルメ

まるごとソーセージ

ソーセージがまるごと1本のった、惣菜パンのベストセラー製品です。

ふんわりソフトな食感に仕上げたパン生地とからし入りドレッシングがさらに味を引き立てます。



大きなメンチカツ

ふんわりとしたパン生地でソースをつけたメンチカツをまるごと1個包んだ、ボリューム満点の惣菜ドーナツです。



薄皮グルメ

しっとりとしたパン生地に、たまご、ツナマヨネーズなどのフィリングをたっぷり包みました。



コッペパングルメ

しっとりソフトな食感に焼きあげたコッペパンに、惣菜フィリングをサンドしました。



アレンジレシピをご紹介します！

薄皮ミニバーガー

用意するもの

- 『薄皮たまごぱん』
- チキンナゲット
- ケチャップ

つくり方

- 1 『薄皮たまごぱん』を横半分にカットします。
- 2 チキンナゲットとケチャップをサンドすれば完成です。



ファイダー 公益財団法人 国際開発救援財団(FIDR)

国際協力援助活動および緊急援助活動を推進しています

当社は、国際社会からの要請に応える社会貢献への取組みの一環として、開発途上国および自然災害被災地の人々がよりよい生活ができることを願い、公益財団法人国際開発救援財団（FIDR）への支援を通じ、国際協力援助活動と緊急援助活動を推進しております。

FIDRへの支援

FIDRは、1990年に当社創業者の故・飯島藤十郎社長が主たる基本財産を出捐し、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）を支援する目的で設立された民間の援助団体です。

子どもの未来を育む「チャイルド・ケア」と「日本人と日本企業による国際協力の推進」をミッションに掲げ、開発途上国の人々の生活環境の向上と地域の発展を目的とした国際協力援助活動と、国内外の自然災害に対する緊急援助活動を実施しております。

現在は、カンボジア、ベトナム、ネパールで、医療、保健衛生、教育、農業、栄養、収入向上などの分野において、地域に根ざした援助活動を行っております。また、2024年元日に発生した令和6年能登半島地震の被災地における緊急・復興支援に、これまでの国内外での緊急援助活動の経験を活かしながら取り組んでおります。

当社はこれらの活動を積極的に支援しております。

栄養教育の普及に向けた支援

FIDRはカンボジア教育省とともに、2025年からのカンボジア全国の学校における「栄養教育」の開始に向け必要な準備を進めております。これまでに、教科書づくりや、栄養教育に初めて取り組む全国の教員への研修を担う「教育トレーナー」の養成を行いました。また、全国に先駆けて栄養教育とともに、子どもの健康を支えるための衛生的な学校環境づくりに取り組む4つのモデル校を支援しております。

5年間の活動を経て、モデル校ではトイレや水飲み場が整備され、教室にも飲料水タンクが配備されるなど、衛生的な学校環境が整いました。また、モデル校の教員は、新しい教科書や手づくりの教材、視聴覚機器も活用しながら栄養教育に取り組んでいます。学校菜園では多種類の野菜が栽培され、子どもたちが水やりなどを担当しています。何より、教員の意識が大きく変化し、子どもの健康を支える学校づくりや栄養教育を担っていく自覚とやる気が高まりました。



手づくり教材を使った栄養教育（カンボジア）

● 地域の衛生状況と農業生産の改善

FIDRは、ネパールのヒマラヤ山脈の裾野にあるソルクンプ郡とオカルドゥンガ郡において地域総合開発事業を実施しております。地域の大きな課題は、衛生的な水の不足です。農業用水も乏しく、農業生産力の低さにつながっていました。

2024年度までに4基の貯水タンクを建設したことで、地域住民は常時衛生的な水を得ることができるようになりました。また、農業用ため池を162か所に造営し、ハウス栽培の設備を924か所に設けました。これにより、水不足により農業生産量が落ちやすい乾季であっても、野菜栽培を行える農家は年々増加し、余剰を販売できる農家も出てきました。

さらに、子どもたちの学習環境を改善するため、対象地域の小中学校13校では、校舎屋根や学校外周を囲うフェンス設置等の修繕を行うとともに、教材・教具を配備しました。また、生徒を対象とした歯磨き研修、小中学校18校の教員を対象とした教員研修も開催しました。



野菜を誇らしげに見せてくれた農家の方(ネパール)

FIDRホームページのご案内

FIDRの援助活動は、FIDRの法人賛助会員、個人賛助会員など多くの方々のご支援を受けて実施しております。FIDRの活動の詳細、支援方法などにつきましては、下記のホームページで紹介しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.fidr.or.jp/>

● 令和6年能登半島地震緊急援助

2024年元日に発生した石川県の能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震は、広い範囲での建物の倒壊や道路の寸断、大規模火災をもたらし、多数の人命被害や住宅の損壊が発生し、産業基盤が喪失しました。FIDRは震災発生直後から情報収集を開始し、現地への出張調査を行い、行政や民間による支援が届きにくいところへの支援活動を実施しました。

能登半島の突端に位置する珠洲市では、ほとんどの学校の校庭に、仮設住宅が建てられたり、地盤に亀裂が生じているため、児童生徒は体育や部活動、学校行事で校外に行く頻度が高くなりました。その移動にはどうしてもバスが必要との市教育委員会からの要請を受けて、FIDRはマイクロバス2台を調達し、地元の子どもたちがデザインした図柄のラッピングを車体に施したうえで、10月に贈呈しました。

FIDRは今後も、珠洲市の復興支援を続けてまいります。



贈呈した2台の学校用マイクロバス（石川県珠洲市）

ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金への協力

当社は、FIDRとWVJが共催・実施しているヤマザキ「ラブ・ローフ」募金に協賛し、約3,000の販売店に募金箱を設置しております。これまでの募金はFIDRとWVJを通じて、アフリカやアジアの開発途上国での援助活動などに役立てられております。



貸借対照表のポイント

流動資産

現金及び預金が増収等により200億76百万円増加しましたが、季節の変動により売掛金が278億36百万円減少したことなどにより、流動資産合計で29億34百万円減少し、3,384億70百万円となりました。

有形・無形固定資産

有形固定資産は、品質向上のための生産設備の更新等により、13億88百万円増加、また無形固定資産は、のれんの償却などにより6億円減少し、有形・無形固定資産合計は3,785億82百万円となりました。当中間期の設備投資額は、233億86百万円、減価償却実施額は206億27百万円です。

投資その他の資産

退職給付に係る資産が年金資産の運用改善もあり26億99百万円増加しましたが、繰延税金資産の減少などもあり1,472億79百万円となりました。

負債合計

借入金の約定返済や支払債務の減少などにより、負債合計は100億94百万円減少し、3,945億24百万円となりました。

純資産合計

自己株式の取得による減少はありましたが、利益剰余金の増加などにより、純資産合計は93億20百万円増加し、4,698億7百万円となりました。

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2025年6月30日現在	前期末 2024年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	338,470	341,404	△2,934
固定資産	525,861	523,701	2,160
有形固定資産	359,985	358,597	1,388
無形固定資産	18,597	19,197	△600
投資その他の資産	147,279	145,906	1,372
資産合計	864,331	865,105	△773
負債の部			
流動負債	256,598	269,953	△13,355
固定負債	137,925	134,664	3,261
負債合計	394,524	404,618	△10,094
純資産の部			
株主資本	353,792	343,422	10,369
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,632	9,632	-
利益剰余金	388,662	374,629	14,033
自己株式	△55,516	△51,852	△3,663
その他の包括利益累計額	67,746	68,727	△980
非支配株主持分	48,267	48,336	△68
純資産合計	469,807	460,486	9,320
負債純資産合計	864,331	865,105	△773

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

総資産・純資産(中間期)



自己資本比率(中間期)



損益計算書のポイント

売上高

パン類を中心に新規技術を積極的に活用し品質向上をはかったことに加え、価格改定の寄与もあり、単体の業績が好調に推移しました。また、(株)不二家や(株)サンデリカ等の連結子会社の伸長とともに、(株)YKベーキングカンパニーの寄与もあり、前年同期に比べ5.3%の増収となりました。

営業利益

液卵や油脂、包材など原材料価格の上昇はありましたが、増収により前年同期に比べ11.8%の増益となりました。

経常利益

円高により、子会社への外貨建貸付金に係る為替差損の計上はありましたが、増収により前年同期に比べ4.2%の増益で、売上高経常利益率は5.4%となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益

防衛特別法人税創設に伴い、実効税率がアップし、法人税等調整額が減少したこともあり、前年同期比は経常利益を上回る6.6%の増益となりました。

売上高経常利益率(中間期)



第75期 第76期 第77期 第78期

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 2025年1月1日から 2025年6月30日まで	前中間期 2024年1月1日から 2024年6月30日まで	増減
売上高	650,633	617,747	32,885
売上原価	434,418	410,737	23,681
売上総利益	216,214	207,009	9,204
販売費及び一般管理費	181,523	175,979	5,543
営業利益	34,690	31,029	3,661
営業外収益	2,929	3,880	△950
営業外費用	2,172	881	1,290
経常利益	35,448	34,028	1,420
特別利益	533	670	△136
特別損失	1,358	937	420
税金等調整前中間純利益	34,623	33,761	862
法人税等合計	10,410	11,073	△662
中間純利益	24,213	22,687	1,525
非支配株主に帰属する中間純利益	1,230	1,118	111
親会社株主に帰属する中間純利益	22,983	21,569	1,413

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 2025年1月1日から 2025年6月30日まで	前中間期 2024年1月1日から 2024年6月30日まで	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,018	46,792	15,225
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,412	△19,655	△8,757
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,578	△23,290	9,711
現金及び現金同等物に係る換算差額	△69	439	△508
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	19,958	4,286	15,671
現金及び現金同等物の期首残高	145,939	129,582	16,357
現金及び現金同等物の中間期末残高	165,897	133,868	32,029

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表（単体）

中間貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2025年6月30日現在	前期末 2024年12月31日現在	増減
資産の部			
流動資産	171,338	179,909	△8,571
固定資産	403,742	407,313	△3,570
有形固定資産	206,721	208,598	△1,876
無形固定資産	7,219	7,406	△187
投資その他の資産	189,802	191,309	△1,506
資産合計	575,081	587,223	△12,142
負債の部			
流動負債	154,056	163,096	△9,040
固定負債	95,727	102,954	△7,226
負債合計	249,784	266,051	△16,267
純資産の部			
株主資本	291,378	286,610	4,767
資本金	11,014	11,014	-
資本剰余金	9,676	9,676	-
利益剰余金	326,204	317,773	8,430
自己株式	△55,516	△51,852	△3,663
評価・換算差額等	33,918	34,561	△642
純資産合計	325,297	321,172	4,124
負債純資産合計	575,081	587,223	△12,142

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間期 2025年1月1日から 2025年6月30日まで	前中間期 2024年1月1日から 2024年6月30日まで	増減
売上高	448,411	430,652	17,759
売上原価	299,007	286,256	12,750
売上総利益	149,404	144,395	5,008
販売費及び一般管理費	126,626	122,541	4,085
営業利益	22,777	21,854	923
営業外収益	3,438	4,174	△736
営業外費用	1,541	536	1,004
経常利益	24,674	25,492	△817
特別利益	74	249	△174
特別損失	619	349	270
税引前中間純利益	24,129	25,392	△1,262
法人税等合計	6,749	7,793	△1,043
中間純利益	17,380	17,599	△218

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

YAMAZAKI インフォメーション

ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」

2025年9月1日（月）から11月15日（土）までの期間、ヤマザキ「秋のわくわくプレゼント」キャンペーンを実施しております。

詳しくは対象商品のパッケージまたは当社ホームページをご覧ください。

Aコース

東京ディズニーリゾート®
パークチケット(ペア)

Bコース

ヤマザキグループ
お菓子のファンタジーボックス



毎週抽選で総計 **ヤマザキ**

50,000 名様に

当たる! キャンペーン期間 9/1st~11/15th

応募期限: 11月20日(木) ※応募期間中に抽選を実施。抽選結果は当選者名簿にて発表。

A コース
16名様に
東京ディズニーリゾート®
パークチケット(ペア)
5,000名様に



※山崎製パン株式会社は東京ディズニーランド®/東京ディズニーシー®のオフィシャルスポンサーです。

B コース
5名様に
ヤマザキグループ
お菓子の
ファンタジーボックス
45,000名様に



人気の
お菓子が
17品



※写真はイメージです(カゴはプレゼントに含まれません)。
※お菓子の組合せ内容、デザインは変更になる場合があります。
※賞品(お菓子の)の入った箱を組み立てるとお菓子のファンタジーボックスになります。

株主優待情報

株主様の日頃のご支援にお応えするため、毎年12月31日現在の株主様(ご所有株式数1,000株以上)に対し、3,000円相当の自社製品の詰合せを毎年4月にお届けいたします。



写真は本年4月にお届けしたものです。

株主優待制度は、当社株式1,000株(単元株式数100株×10単元)以上を所有されている株主様を対象しております。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けの「決算・IR情報」をはじめ、商品情報やおおすすめのレシピなど、さまざまな情報を公開しています。



<https://www.yamazakipan.co.jp/>

株式の状況

発行可能株式総数	800,000,000株
発行済株式総数	220,282,860株
株主総数	19,893名 (前期末比3,546名減)

大株主

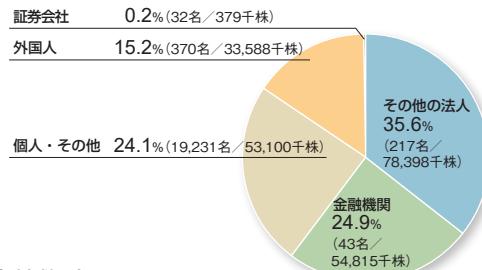
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
飯島興産株式会社	18,777,895	9.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,830,300	9.0
公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団	12,500,000	6.3
株式会社日清製粉グループ本社	11,062,343	5.5
三菱商事株式会社	9,849,655	4.9
丸紅株式会社	8,165,880	4.1
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	7,246,663	3.6
明治安田生命保険相互会社	6,501,500	3.2
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,027,800	3.0
株式会社三井住友銀行	3,946,419	1.9

(注) 1. 当社は、自己株式を22,727,964株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

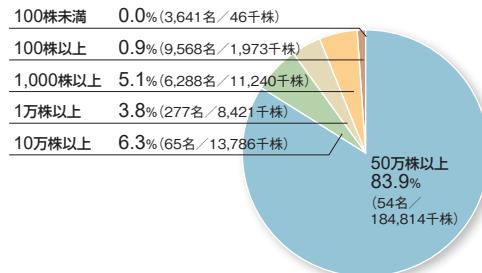
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

●所有者別



●所有株数別



役員・従業員 (2025年6月30日現在)

役員

代表取締役社長	飯島 延浩	取締役	島田 秀男 (社外取締役)
代表取締役副社長	飯島 幹雄	取締役	畑江 敬子 (社外取締役)
専務取締役	横濱 通雄	取締役 常勤監査等委員	佐藤 健司
専務取締役	会田 正久	取締役 常勤監査等委員	松田 道弘 (社外取締役)
専務取締役	犬塚 勇	取締役 監査等委員	齋藤 昌男 (社外取締役)
専務取締役	関根 治	取締役 監査等委員	馬場久萬男 (社外取締役)
専務取締役	吉田谷良一		
常務取締役	酒井 光政		
常務取締役	吉田 修康		

従業員

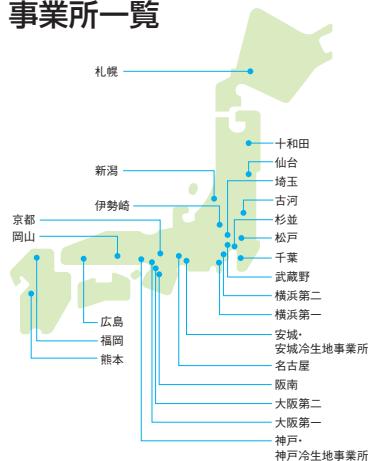
連結	33,943名 (男性24,263名、女性9,680名)
当社	19,524名 (男性15,251名、女性4,273名)

重要な子会社

会社名	資本金(百万円)	当社の議決権比率(%)	主要な事業内容
株式会社不二家	18,280	54.4	洋菓子、チョコレート、キャンディ、クッキー等の製造および販売
株式会社サンデリカ	2,000	100.0	調理パン、米飯類等の製造および販売
株式会社YKベーキングカンパニー	1,110	100.0	パン、洋菓子等の製造および販売
ヤマザキビスケット株式会社	1,600	80.0	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社東ハト	2,168	95.4	ビスケット、スナック等の製造および販売
株式会社ヴィ・ド・フランス	100	100.0	ベーカリーカフェの経営
大徳食品株式会社	100	100.0	麺類の製造および販売
株式会社イケダパン	100	80.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
ヴィ・ド・フランス・ヤマザキ,Inc.(アメリカ)	5,000千US\$	100.0	ベーカリー製品の製造および販売ならびにベーカリーカフェの経営
フォーリーブズ PTE.Ltd.(シンガポール)	1,250千S\$	60.0	ベーカリーの経営
株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル	236	100.0	パン用冷凍生地等の製造および販売ならびにインスタベーカリーの経営
株式会社スリーエスフーズ	480	100.0	パンの製造および販売
香港山崎麵包有限公司(香港)	45,500千HK\$	100.0	ベーカリーの経営
株式会社サンキムラヤ	100	100.0	パン、和・洋菓子、米飯類等の製造および販売
株式会社高知ヤマザキ	100	100.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
PT.ヤマザキ インドネシア(インドネシア)	8,830億Rp	51.0	パン、和・洋菓子等の製造および販売
株式会社ヤマザキ物流	300	100.0	物流事業
株式会社サンロジスティックス	380	100.0	物流事業
株式会社ヤマザキエンジニアリング	80	100.0	食品製造設備の設計、監理および工事の請負

(注) 1. 大徳食品(株)は、(株)サンデリカ全額出資の子会社であり、当社の議決権比率は間接所有割合であります。
 2. (株)サンロジスティックスは、当社と(株)ヤマザキ物流がそれぞれ50%ずつ出資しており、当社の議決権比率は間接所有を含む割合であります。
 3. 連結子会社は、上記重要な子会社19社を含む40社であります。

事業所一覧



本社	東京都千代田区岩本町3-10-1	大阪第一工場	大阪府吹田市幸町29-1
神戸工場	千葉県松戸市南花島向町319	神戸工場	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
千葉工場	千葉県千葉市美浜区新港22	大阪第二工場	大阪府松原市三宅東2-1835-5
武蔵野工場	東京都東久留米市柳窪2-5-14	阪南工場	大阪府羽曳野市広瀬161
埼玉工場	埼玉県所沢市坂之下85	京都工場	京都府宇治市横島町目川100
杉並工場	東京都杉並区高井戸西3-2-30	名古屋工場	愛知県名古屋市中区玉池町36
横浜第一工場	神奈川県横浜市戸塚区上柏尾町15	安城工場	愛知県安城市二本木新町2-1-3
横浜第二工場	神奈川県横浜市都筑区東方町188	岡山工場	岡山県総社市井尻野800
古河工場	茨城県古河市丘里7	広島工場	広島県広島市安佐北区大林2-3-1
伊勢崎工場	群馬県伊勢崎市粕川町1801	福岡工場	福岡県古賀市古賀69
仙台工場	宮城県柴田郡柴田町槻木白幡2-9-1	熊本工場	熊本県宇城市松橋町浦川内2388
新潟工場	新潟県新潟市江南区二本木4-12-8	安城冷生地事業所	愛知県安城市二本木新町2-1-3
十和田工場	青森県十和田市稲生町1-13	神戸冷生地事業所	兵庫県神戸市西区高塚台6-19-1
札幌工場	北海道恵庭市恵南10-1	海外駐在員事務所	米国、パリ、台北、上海、ジャカルタ、ホーチミン

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当の基準日	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告によるものとし、当社のホームページ (https://www.yamazakipan.co.jp/ir/koukoku/) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株式の上場	東京証券取引所プライム市場

株式に関するお手続き

- 株式に関する各種お手続き(住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていない株主様の株式につきましては、特別口座で管理されております。特別口座に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替(※)、住所変更、単元未満株式の買増請求・買取請求、配当金受領方法の指定など)は、三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。

(※)証券会社の口座への振替について

特別口座では株式の売買を行うことはできません。売買を行う場合は証券会社の口座に株式を振り替えてください。

・証券会社の口座をお持ちでない株主様は、あらかじめ証券会社で口座開設をしてください。

・単元未満株式の買増請求・買取請求につきましては、特別口座のまま行うことができます。

特別口座に関する各種お手続きに必要な用紙のご請求は、上記のフリーダイヤルまたは下記のホームページで受付しております。

◎ ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

- 未払配当金のお受取りにつきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行にてお取扱いいたします。
- 会社法改正により、株主総会資料は原則としてインターネットを通して提供することとなりました。書面での受領を希望される株主様は、口座を開設されている証券会社または三井住友信託銀行(上記のフリーダイヤル)にお問い合わせください。